

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)				担当	石井							
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高1／A・B・C組		国語／言語文化		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数		使用教科書		☒	課題発見	☐	戦略的学習力	☒	言語スキル	☒	協働性	☐	データサイエンス	☒	クリエイティビティ	未来志向
2時間／週		明治書院 精選言語文化		☒	可能性発見	☒	自己修正	☒	双方向コミュニケーション	☒	ソーシャルリティ	☒	批判的思考	☒	論理的表現力	他者尊重
				☒	パーソナライズな学び	☒	レジリエンス	☒	感情のコントロール	☒	教科と社会を紐づける力	☐	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
	単元	単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・宇治拾遺物語 ・十訓抄 ・和歌・短歌	「児のそら寝」などの親しみやすい作品で古典のおもしろさを味わう。古典文法について学習することで、古文を読むスキルを身につける。和歌・短歌では、歌の詠み手の人物像や歌が詠まれた背景に迫り、更にそれを現代に置き換えて発表することで、他者に日本の文化を伝える。		社会・世界の視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
					古典作品にあらわれる文化や価値観を学び、現代との共通点、相違点について、他者に伝えることができる。											
2 学期	・現代の文学 ・徒然草 ・漢文	現代文学を通し、内容や展開を的確に捉えることを学ぶ。古典の随筆を読み、当時の生活や価値観、文化に触れる。故事成語の由来や意味と、現代の言葉へのつながりを理解し、漢文の世界に親しむ。		他者・地域の視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
					古典作品を読むことを通し、人間の生き方や価値観について気づくことができる。		グループワークを行い、自分の問いや解釈を共有できる。お互いの考えを擦り合わせながら、納得解や最適解のための対話ができる。		古典の世界と現代のつながりを演劇におこし、スタディフェスタで発表する。							
3 学期	・土佐日記 ・近代の文学	古典の日記を読み、当時の生活や価値観、文化に触れたがら、古典に親しむ。。近代詩を読み、作者の感情を捉える力を育成する。		個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
					歴史的仮名遣いの決まり、用言の活用について理解できている。		他者の意見と自分の意見を比較しながら、自己評価することができる。		チーム内で修正しながらより良い発表に向けて協力できる。学習成果をプレゼンテーションおよび相互評価することができる。							
				関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act								
				評価方法							学びのリソース(教材・ICT)					
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●単元テスト(30%) ●授業課題等学習の進捗状況(20%)		●創作活動 ●協働や発表 ●活動の貢献度(50%)		<教材> 最新国語便覧・基礎から学ぶ解析 古典文法・基礎から学ぶ解析 古典文法演習ノート <ICT> iPad・iMovieなど。							
・古典の世界と現代とはどのようにつながっているのか		・プレゼンテーション ・演劇発表											思考力・判断力・表現力			
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>				主体的に学習に取り組む態度												

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)						担当	中嶋	
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー								
高校1年/探究		現代の国語		自分をコントロールする Self-Control		他者とながらる Communication		新しい価値を創造する Creation				
時間数		使用教科書		目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機		
2時間／週		国語 三省堂 新訂版最新国語便覧 筑摩書房		☒ 課題発見	☐ 戦略的学習力	☒ 言語スキル	☒ 協働性	☐ データサイエンス	☐ クリエイティビティ	未来志向		
				☒ 可能性発見	☒ 自己修正	☒ 双方向コミュニケーション	☒ ソーシャリティ	☐ 批判的思考	☒ 論理的表現力	他者尊重		
				☒ パーソナライズな学び	☐ レジリエンス	☒ 感情のコントロール	☒ 教科と社会を結ぶ力	☒ 情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>	自己承認		
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)								
1 学期	・「届く言葉・届かない言葉」 ・「水の東西」ほか	評論文の読解を通して、説明方法の特徴を学び、自らの文章作成に活かせるようになる。 小説の読解を通し、表現効果に注意して人物の心情の読み取りをする。 NewsPicksを通して社会課題とのつながりを意識した問いの設定と自分の考えを表現することを試みる。	社会・世界の視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン				
				作品に描かれる事柄を実社会との関連で捉え、広い視野で物事を捉えられるようになる。		作品を通して様々なもののがん替え方に触れ、実社会で起こっている問題とつなげて考える。						
2 学期	・「情報のメタ化」 ・「ぐうぜん、うたがう、読書のすすめ」	自分の読書体験から、「人に勧めたいこの一冊」をプレゼンする。限られた時間内でどれだけその魅力を相手に伝えられるかを1学期の学びを活かして実行する。 評論文読解の力を高めるため、文章構成を意識した読みをする。"	他者・地域の視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表				
				優れた作品に触れ、その感性やことは選びを知る。		自分の思いや考えを他者と共有し、考えを深め足り、新しい気づきについて7考える。						
3 学期	俳句、「ものとことば」ほか	自分の感性や感動を限られた文字数で表現すること。人の作品を味わい、その感性に触れる楽しみを味わう。	個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする				
				評論文の構成、表現技法、語彙、漢字について学ぶ。		筆者の主張を捉え、なぜその表現を使っているのか、言葉にこめられた意識を想像する。その過程で様々な表現の可能性を探る。		問いに対しての自分の考えを言語化し、他者と共有できる。それらをプレゼンテーションし、相互評価できる。				
				関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act				
				評価方法				学びのリソース(教材・ICT)				
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●単元テスト(30%) ●小テスト・授業課題等学習の進捗状況(20%)	●創作活動 ●協働や発表 ●活動の貢献度(50%)		<教材> 教科書、iPad <ICT> NewsPicks、keynote ほか <備考> 必要に応じて書籍・web動画等を参考・活用する				
「日本の風景」について考える		試験問題(記述)をグループワークで作成。何のためにどのように問うかを考える活動をする。									思考力・判断力・表現力	
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		NewsPicksのコメント機能、プリント利用した課題への取		主体的に学習に取り組む態度								

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)						担当	小橋・吉田	
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー								
高校1年A組		公共		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation				
時間数		使用教科書		☒ 課題発見	☐ 戦略的学習力	☒ 言語スキル	☒ 協働性	☒ データサイエンス	☒ クリエイティビティ	内発動機		
2時間／週		東京法令出版『公共』		☐ 可能性発見	☒ 自己修正	☐ 双方向コミュニケーション	☒ ソーシャリティ	☒ 批判的思考	☒ 論理的表現力	他者尊重		
				☐ パーソナライズな学び	☐ レジリエンス	☐ 感情のコントロール	☒ 教科と社会を結ぶ力	☐ 情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>	自己承認		
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)								
1 学期	・公共の扉をひらくために(小橋)	・基礎的な倫理の学習を通じて、「自由」や「幸福」など基本的な価値を考える。		社会・世界的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン			
	・よりよい社会の形成に参画するために(吉田)	・経済のしくみや、日本国際経済の歴史や現在の動向についての学びを深める。			新聞記事などから実社会の動きを知り、学習したものと結びつけ、考察する。		現実の社会課題から、「問い」を作り出すことができる					
2 学期	・公共の扉をひらくために(小橋)	・人権・憲法に関わる資料や、当事者の声から、社会問題や課題を自分事として多面的に考察し行動することができる。		他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表			
	・よりよい社会の形成に参画するために(1)(吉田)	・現代でおこる日本世界経済の動向、課題、潮流などに、学んだ知識をあてはめて考察し、他者と積極的に意見交換を行うことができる。			実教材材などから学習したことを結び付けて、学びを深めることができる。		基本的な学習を根拠に、未来の社会が向かうべき方向性に対話し、考える。		学習した成果を、外部のコンクールなどに応募する			
3 学期	・よりよい社会の形成に参画するために(2)(小橋・吉田)	・国際政治のしくみと動向、国際社会の現状と課題について、現在進行形で起きる世界の動向をからめて学びを深める。 ・自ら国際政治・国際関係に関する問を設定し、国際的に活動する当事者・団体に取材をしたり調査をすることができる。		個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする			
					教科書を中心とした知識が身につく、公共に関する基本的な情報がわかる。		学習した内容から、現代社会で起こる諸現象に関する「問い」を発見し、さらに学びを深めることができる。		学習内容をまとめ、自身の意見を踏まえながら他者を意識したプレゼンテーション、あるいは課題提出ができる。			
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act			
					評価方法				学びのリソース(教材・ICT)			
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例 Heart		創造的な活動およびアウトプットの例 Hands		知識・技能	●単元テスト30% ●レポート30%		●アウトプットテスト40% →【1学期】世界の子供人権コンテスト動画作成 ※アウトプットテスト欠席者の対応は、原則当該テスト分の評価は無し		【教材】			
・民主主義は最高の政治システムなのか？ ・公共の福祉と人権・権利のバランスとは？ ・SDGsで本当に持続可能な世界は作れるか？		・東京都、あるいは中野区に新たな条例の骨子を提案し、提案理由の根拠を説明しなさい ・米中の間の日本の立場をどうしたらいいか？ ・なぜ政府の出生率アップの政策は成功しないのか？		思考力・判断力・表現力					【ICT】 ・教科サイト			
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化> Head		・Google Classroom(進捗課題および予定の確認) ・ロイロノート(進捗共有および作品共有) ・パドレット(進捗共有および作品共有)		主体的に学習に取り組む態度					【備考】			

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)						担当	岩本	
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー								
高校1年B組・C組		公共		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation				
時間数		使用教科書		目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機		
2時間／週		東京法令出版『公共』		✔ 課題発見	✔ 戦略的学習力	✔ 言語スキル	✔ 協働性	✔ データサイエンス	✔ クリエイティビティ	未来志向		
				✔ 可能性発見	✔ 自己修正	✔ 双方向コミュニケーション	✔ ソーシャルリティ	✔ 批判的思考	✔ 論理的表現力	他者尊重		
				✔ パーソナライズな学び	✔ レジリエンス	✔ 感情のコントロール	✔ 教科と社会を結ぶ力	✔ 情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>	自己承認		
単元				学びの羅針盤(活動内容と評価基準)								
1 学期	公共の扉をひらくために		社会・世界的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン				
	・公共空間における基本原理と日本国憲法、日本の政治機構と政治参加についての学びを深める。 ・人権・憲法に関わる資料や、当事者の声から、社会問題や課題を自分事として多面的に考察し行動することができる。			社会で周辺化されている当事者の方や、社会課題解決にむけて活動する当事者に取材できる		自ら社会課題に関わる具体的な問題を設定できる		社会課題の当事者と連携し、イベントを企画・実施できる。				
2 学期	よりよい社会の形成に参画するために(1)		他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表				
	・経済のしくみや、日本国際経済の歴史や現在の動向についての学びを深める。 ・現代でおこる日本世界経済の動向、課題、潮流などに、学んだ知識をあてはめて考察し、他者と積極的に意見交換を行うことができる。			資料集やWeb記事を活用し、より本質的な理解、課題設定ができる		様々な意見をもつ他者と対話をするなかで、自分自身のもつ「問い」を多角的に思考し、深めることができる。		動画を作成をするなどして、民主主義や人権等の重要性を発信できる				
3 学期	よりよい社会の形成に参画するために(2)		個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする				
	・国際政治のしくみと動向、国際社会の現状と課題について、現在進行形で起きる世界の動向をからめて学びを深める。 ・自ら国際政治・国際関係に関する問を設定し、国際的に活動する当事者・団体に取材をしたり調査をすることができる。			教科書を中心とした知識が身につく、地理に関する基本的な情報がわかる。		学習した内容から、現代社会で起こる諸現象に関する「問い」を発見し、さらに学びを深めることができる。		学習内容をまとめ、自身の意見を踏まえながら他者を意識したプレゼンテーションができる。				
				関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act				
				評価方法				学びのリソース(教材・ICT)				
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●単元テスト30% ●授業内活動・課題10%		●アウトプットテスト40%(創作過程も含める) ●リフレクション20%		【教材】 ・東京法令出版「公共」			
・「平和な社会」とはどのような社会か？ ・民主主義に必要な要素とはなにか？ ・「市民」とはどのような人か？		・憲法や人権の重要性について、動画にまとめて発信することができる ・社会課題の当事者に取材した内容をまとめて、発表することができる		思考力・判断力・表現力					<ICT> ipad グーグルクラスルーム 他、ICTアプリ			
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		・Google Classroom(進捗課題および予定の確認) ・ロイロノート(進捗共有および作品共有)		主体的に学習に取り組む態度					<備考>			

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)							担当	濱本,西村				
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高校1年		数学I		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数		使用教科書		☒	課題発見	☒	戦略的学習力	☐	言語スキル	☒	協働性	☒	データサイエンス	☒	クリエイティビティ	未来志向
4時間／週		数研出版 数学I		☒	可能性発見	☒	自己修正	☒	双方向コミュニケーション	☐	ソーシャルリティ	☒	批判的思考	☒	論理的表現力	他者尊重
				☒	パーソナライズな学び	☒	レジリエンス	☒	感情のコントロール	☒	教科と社会を紐づける力	☒	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
	単元	単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・数と式	・単元の意義を考え、概念を理解し、基本的な知識技能を身につける。 ・問いや具体的な場面について表現できる。		社会的視点	A3 実社会から学びを得る			B3 実社会の問いを生む			C3 社会貢献のデザイン					
					実社会や世界のデータを検索し事象の数値を比較・分析したものを選択した方法で表現できる。※リアルな体験を通してB3につなげる可能性もある。											
2 学期	・2次関数 ・データの分析	・単元の意義を考え、概念を理解し、基本的な知識技能を身につける。 ・グラフの基本的な性質を理解し、事象の考察に活用できるようにする。		他者の視点	A2 本物の素材から学びを得る			B2 対話から問いを生む			C2 学外に向けて発表					
					日常の事象から問いを発見し、解を導くことができる。			日常の事象もしくは実社会の問題に対して、役割分担を行い、解決や創造のアウトプットを共創する。								
3 学期	・図形と計量	・三角比の基本的な性質を理解し、事象の考察に活用できるようにする。 ・問いや具体的な場面について表現できる。		個人的視点	A1 教科書から学びを得る			B1 個人の問いを生む			C1 校内で発表をする					
					基本事項の本質的な理解につとめ、基本問題を解くことができる。			手順の違う解法など他者の意見の理解に努め、学び方に向き合う姿勢が見られる。また、それらを自己評価することができる。			学習成果を共有・プレゼンテーションおよび相互評価することができる。					
					関わり Engage			探究 Investigate			行動 Act					
					評価方法						学びのリソース(教材・ICT)					
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●単元テスト(40%) ●Checkテスト(10%)			●創作活動 ●協働や相互評価 ●発表または共有 ●活動の貢献度 ●学習の進捗状況(50%)			【教材】 ・授業プリント ・問題集クリアー数学I+A 【ICT】 ・教科サイトおよびiPad Appなど 【備考】 必要に応じて Web動画、Webソフトを活用する					
・2次関数や放物線を実社会でどのように用いるのか ・場面によって適したデータの分析とは何か		・無理数を使う場面に対して、自分の考えを動画でまとめることができる ・データの分析をNumbersで行い、考察内容を発表することができる		思考力・判断力・表現力												
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		・Seesaw(進捗課題および作品共有、予定の確認)ほか		主体的に学習に取り組む態度												

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)						担当	芥	
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー								
高校1年早期学習		数学Ⅰ		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation				
時間数		使用教科書		目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機		
4時間／週		数研出版 数学Ⅰ		☒ 課題発見	☒ 戦略的学習力	☐ 言語スキル	☒ 協働性	☒ データサイエンス	☒ クリエイティビティ	未来志向		
				☒ 可能性発見	☒ 自己修正	☒ 双方向コミュニケーション	☐ ソーシャルリティ	☒ 批判的思考	☒ 論理的表現力	他者尊重		
				☒ パーソナライズな学び	☒ レジリエンス	☒ 感情のコントロール	☒ 教科と社会を紐づける力	☒ 情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>	自己承認		
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)								
1 学期	・数と式	・単元の意義を考え、概念を理解し、基本的な原理・法則を用いた処理ができる。 ・本質的な問いに従って、問題解決の過程における粘り強さ・数学的論拠・表現のよさに気づき、評価・改善ができる。		社会・世界的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン			
					実社会や世界のデータを検索し事象の数値を比較・分析したものを選択した方法で表現できる。※リアルな体験を通してB3につなげる可能性もある。							
2 学期	・2次関数 ・データの分析 ・図形と計量	・単元の意義を考え、概念を理解し、基本的な原理・法則を用いた処理ができる。 ・関数やグラフの性質を理解し、事象を数学的に捉えて簡潔・明瞭・的確に表現できる。 ・データや三角比の性質を理解し、事象を数学的に捉えて簡潔・明瞭・的確に表現できる。 ・本質的な問いに従って、問題解決の過程における粘り強さ・数学的論拠・表現のよさに気づき、評価・改善ができる。		他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表			
					日常の事象から問いを発見し、解を導くことができる。		日常の事象もしくは実社会の問題に対して、役割分担を行い、解決や創造のアウトプットを共創する。					
3 学期	・いろいろな式(数Ⅱ)	・単元の意義を考え、概念を理解し、基本的な原理・法則を用いた処理ができる。 ・論理的な考察を用いて、多面的・統合的に事象を捉えて簡潔・明瞭・的確に表現できる。 ・本質的な問いに従って、問題解決の過程における粘り強さ・数学的論拠・表現のよさに気づき、評価・改善ができる。		個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする			
					基本事項の本質的な理解につとめ、基本問題を解くことができる。		手順の違う解法など他者の意見の理解に努め、学び方に向き合う姿勢が見られる。また、それらを自己評価することができる。		学習成果を共有・プレゼンテーションおよび相互評価することができる。			
				関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act				
				評価方法				学びのリソース(教材・ICT)				
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●単元テスト(40%) ●Checkテスト(10%)		●創作活動 ●協働や相互評価 ●発表または共有 ●活動の貢献度 ●学習の進捗状況(50%)		【教材】 ・授業プリント ・問題集クリアー数学Ⅰ+A 【ICT】 ・教科サイトおよびiPad Appなど 【備考】 必要に応じて Web動画、Webソフトを活用する			
・2次関数や放物線を実社会でどのように用いるのか ・場面によって適したデータの分析とは何か		・無理数を使う場面に対して、自分の考えを動画でまとめることができる ・データの分析をNumbersで行い、考察内容を発表することができる									思考力・判断力・表現力	
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		・Seesaw(進捗課題および作品共有、予定の確認)ほか		主体的に学習に取り組む態度								

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)							担当	濱本,西村											
学年／コース			教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー																		
高校1年			数学／数学A		自分をコントロールする Self-Control			他者とつながる Communication			新しい価値を創造する Creation												
					目標設定	選択		対話		つながり		情報活用		創造表現		内発動機							
時間数			使用教科書		☒	課題発見		☒	戦略的学習力		☒	言語スキル		☒	協働性		☐	データサイエンス		☒	クリエイティビティ		未来志向
2時間／週			数研出版 新編 数学 A		☒	可能性発見		☒	自己修正		☒	双方向コミュニケーション		☐	ソーシャルリティ		☒	批判的思考		☒	論理的表現力		他者尊重
					☒	パーソナライズな学び		☒	レジリエンス		☒	感情のコントロール		☒	教科と社会を紐づける力		☒	情報リテラシー		<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>			
	単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)																		
1 学期	・集合 ・場合の数		・集合・場合の数の意味を理解し、基本的な知識技能を身につける。 また、具体的な場面で活用できる。		社会的視点	A3 実社会から学びを得る				B3 実社会の問いを生む				C3 社会貢献のデザイン									
						実社会や世界のデータを検索し事象の数値を比較・分析したものを選択した方法で表現できる。※リアルな体験を通してB3につなげる可能性もある。																	
2 学期	・場合の数 ・図形の性質		・確率の意味を理解し、基本的な知識技能を身につける。 また、具体的な場面で活用できる。 ・図形の性質の意味を理解し、基本的な知識技能を身につける。また、具体的な場面で活用できる。		他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る				B2 対話から問いを生む				C2 学外に向けて発表									
						日常の事象から問いを発見し、解を導くことができる。				日常の事象もしくは実社会の問題に対し、役割分担を行い解決や創造のアウトプットを共創する。													
3 学期	・数学と人間の活動		・数学と人間の活動の意味を理解し、基本的な知識技能を身につける。また、具体的な場面で活用できる。		個人的視点	A1 教科書から学びを得る				B1 個人の問いを生む				C1 校内で発表をする									
						基本事項の本質的な理解につとめ、基本問題を解くことができる。				手順の違う解法など他者の意見の理解に努め、学び方に向き合う姿勢が見られる。また、それらを自己評価することができる。				学習成果を共有・プレゼンテーションおよび相互評価することができる。									
					関わり Engage				探究 Investigate				行動 Act										
					評価方法								学びのリソース(教材・ICT)										
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例			創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●単元テスト(40%) ●Checkテスト(10%)				●創作活動 ●協働や相互評価 ●発表または共有 ●活動の貢献度 ●学習の進捗状況(50%)				【教材】 ・授業プリント ・問題集クリアー数学I+A 【ICT】 ・教科サイトおよびiPad Appなど 【備考】 必要に応じて Web動画、Webソフトを活用する									
・場合の数や確率を実社会でどのように用いるのか			・確率を使う場面に対して、自分の考えを動画でまとめることができる		思考力・判断力・表現力																		
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>			・Google Classroom(進捗課題および予定の確認) ・Padlet(進捗共有および作品共有)		主体的に学習に取り組む態度																		

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)						担当	芥	
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー								
高校1年早期学習		数学A		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation				
時間数		使用教科書		目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機		
2時間／週		数研出版 数学A		☒ 課題発見	☒ 戦略的学習力	☐ 言語スキル	☒ 協働性	☒ データサイエンス	☒ クリエイティビティ	未来志向		
				☒ 可能性発見	☒ 自己修正	☒ 双方向コミュニケーション	☐ ソーシャルリティ	☒ 批判的思考	☒ 論理的表現力	他者尊重		
				☒ パーソナライズな学び	☒ レジリエンス	☒ 感情のコントロール	☒ 教科と社会を結ぶ力	☒ 情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>	自己承認		
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)								
1 学期	・集合と要素の個数 ・場合の数	・単元の意義を考え、概念を理解し、基本的な原理・法則を用いた処理ができる。 ・集合や場合の数の性質を理解し、事象を数学的に捉えて簡潔・明瞭・的確に表現できる。 ・本質的な問いに従って、問題解決の過程における粘り強さ・数学的論拠・表現のよさに気づき、評価・改善ができる。		世界的視点 社会・社会	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン			
			実社会や世界のデータを検索し事象の数値を比較・分析したものを選択した方法で表現できる。※リアルな体験を通してB3につなげる可能性もある。									
2 学期	・確率 ・図形の性質	・単元の意義を考え、概念を理解し、基本的な原理・法則を用いた処理ができる。 ・確率や図形の性質を理解し、事象を数学的に捉えて簡潔・明瞭・的確に表現できる。 ・本質的な問いに従って、問題解決の過程における粘り強さ・数学的論拠・表現のよさに気づき、評価・改善ができる。		他者・地域の視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表			
			日常の事象から問いを発見し、解を導くことができる。		日常の事象もしくは実社会の問題に対して、役割分担を行い、解決や創造のアウトプットを共創する。							
3 学期	・数学と人間の活動	・単元の意義を考え、概念を理解し、基本的な原理・法則を用いた処理ができる。 ・論理的な考察を用いて、多面的・統合的に事象を捉えて簡潔・明瞭・的確に表現できる。 ・本質的な問いに従って、問題解決の過程における粘り強さ・数学的論拠・表現のよさに気づき、評価・改善ができる。		個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする			
			基本事項の本質的な理解につとめ、基本問題を解くことができる。		手順の違う解法など他者の意見の理解に努め、学び方に向き合う姿勢が見られる。また、それらを自己評価することができる。		学習成果を共有・プレゼンテーションおよび相互評価することができる。					
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act			
				評価方法				学びのリソース(教材・ICT)				
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●単元テスト(40%) ●Checkテスト(10%)		●創作活動 ●協働や相互評価 ●発表または共有 ●活動の貢献度 ●学習の進捗状況(50%)		【教材】 ・授業プリント ・問題集クリアー数学I+A 【ICT】 ・教科サイトおよびiPad Appなど 【備考】 必要に応じて Web動画、Webソフトを活用する			
・確率から見えてくるものは何か ・数学は人間の活動にどのような影響を与えているのか		・確率のある事象に対して、自分の考えをポスターでまとめることができる ・整数の性質をNumbersで表現し、考察内容を発表することができる			思考力・判断力・表現力							
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		・Seesaw(進捗課題および作品共有、予定の確認)ほか		主体的に学習に取り組む態度								

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)						担当	高橋正・蓮沼					
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高校1年全コース		化学基礎		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数		使用教科書		☑	課題発見	☑	戦略的学習力	☑	言語スキル	☑	協働性	☑	データサイエンス	☑	クリエイティビティ	未来志向
2時間／週		東京書籍 新編化学基礎		☑	可能性発見	☑	自己修正	☑	双方向コミュニケーション	☑	ソーシャリティ	☑	批判的思考	☑	論理的表現力	他者尊重
				☑	パーソナライズな学び	☑	レジリエンス	☑	感情のコントロール	☑	教科と社会を紐づける力	☑	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>	自己承認	
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	【1編】化学と人間生活	【1編】1章 化学とは何か、2章物質の成分と構成元素		社会・世界的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
	【2編】物質の構成	【2編】2章 化学結合			学期に1回、専門家からの講演・セミナーを実施し、自分の学びに自分のコメントを表現できる。		実社会にある化学に関わる社会課題について、自分の問いを生み出すことができる。		持続可能な社会に向けて、化学基礎の学びを活用できるコラムを書くことができる。							
2 学期	【2編】物質の構成	【2編】2章 化学結合		他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
	【3編】物質の変化	【3編】1章 物質質量と化学変化、2章酸と塩基			実験での学びを、日常の事象へ繋げることができる。 社会課題と呼ばれるものの中から、化学と関連を発見し、課題の本質を表現できる。		対話により他者との意見を聞き発展できる。 新たな問いを見つけて、解決にこだわらず、外部への情報発信する材料を準備できる。		教科書のコラム作成に向けて創作する。 学びを学校外の誰かに発信できる。							
3 学期	【3編】物質の変化	【3編】3章 酸化還元反応		個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
	★教科書コラム作成	★教科書コラム作成			中学理科と繋がりを考えながら化学基礎を学ぶ。EssentialQuestionを用いて学習内容が定着度を客観的に把握し、補うことができる。正しい実験技能を身につけることができる。		教科の学びを教科書のコラムやNewsPicksと繋げることができる。理科的な思考力を深められる。		学習成果をプレゼンテーションすることができる。また発表について相互評価することができる。							
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act							
				評価方法					学びのリソース(教材・ICT)							
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●アウトプット型テスト(30%)		●創作活動		<教材> 教科書・Think&Quest・iPad <ICT> ロイロノート・Keynote・Documentほか <備考> try it 化学基礎(Web動画) NHK高校講座 化学基礎 などは家庭学習で活用する							
・化学と自分の身の周りとの繋がりを説明せよ。		・単元の内容について「なぜだろう?」を考えるきっかけを意識して、専門用語を用いながら、筋道を立てて言語化できるようにする。														
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		・授業プリント(手書き記入) ・Think&Quest ・ロイロノートによる画像、動画、スライド		思考力・判断力・表現力	●単元テスト		●チェックテスト		●活動の貢献度(50%)							
				主体的に学習に取り組む態度												

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)						担当						
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高校1年全コース		生物基礎		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数		使用教科書		☑	課題発見	☑	戦略的学習力	☑	言語スキル	☑	協働性	☑	データサイエンス	☑	クリエイティビティ	未来志向
2時間／週		東京書籍 新編生物基礎		☑	可能性発見	☑	自己修正	☑	双方向コミュニケーション	☑	ソーシャルリティ	☑	批判的思考	☑	論理的表現力	他者尊重
				☑	パーソナライズな学び	☑	レジリエンス	☑	感情のコントロール	☑	教科と社会を紐づける力	☑	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	1編 生物の特徴 3編 ヒトの体の調節	【1編】1章 生物の多様性と共通性 2章 生物とエネルギー 【3編】1章 ヒトの体を調節するしくみ 2章 免疫のはたらき		社会・世界的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
					生物基礎の学びに関連する専門家や企業・社会人に話を聞き、教科書の学習と社会とのつながりを見出すことができる。		実社会にある生物に関わる社会課題について、自分の問いを生み出すことができる。		持続可能な社会に向けて、生物基礎の学びを活用できるコラムを書くことができる。							
2 学期	2編 遺伝子とはたらき 4編 生物の多様性と生態系	【2編】1章 遺伝子とDNA 2章 遺伝情報とタンパク質の合成 【4編】1章 植生と遷移 2章 生態系と生物の多様性		他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
					実験での学びを、日常の事象へ繋げることができる。 社会課題と呼ばれるものの中から、生物と関連を発見し、課題の本質を表現できる。		対話により他者との意見を聞き発展できる。 新たな問いを見つけて、解決にこだわらず、外部への情報発信する材料を準備できる。		教科書のコラム作成に向けて創作する。 学びを学校外の誰かに発信できる。							
3 学期	結章 生物基礎と私たち	【結章】生物基礎と私たち		個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
					中学理科と繋がりを考えながら生物基礎を学ぶ。EssentialQuestionを用いて学習内容が定着度を客観的に把握し、補うことができる。正しい実験技能を身につけることができる。		教科の学びを教科書のコラムやNewsPicksと繋げることができる。理学的な思考力を深められる。		学習成果をプレゼンテーションすることができる。また発表について相互評価することができる。							
				関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act								
				評価方法						学びのリソース(教材・ICT)						
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能		●単元テスト(30%) ●チェックテスト ●Think & Quest (20%)		●創作活動 ●レポート ●授業態度 ●提出物 ●ワークシート ●活動の貢献度 (50%)		<教材> 教科書・Think & Quest・iPad <ICT> ロイロノート・Keynote・Documentほか <備考> NHK高校講座 生物基礎 などは家庭学習で活用する						
・生物基礎の学びを持続可能な社会に向けて活用することができるだろうか？		・単元の内容について「なぜだろう？」を考えるきっかけを意識して、専門用語を用いながら、筋道を立てて言語化できるようにする。		思考力・判断力・表現力												
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		・授業プリント(手書き記入)など ・Think & Quest ・ロイロノートによる画像、動画、スライド		主体的に学習に取り組む態度												

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)								担当	白石・村上 モーリス			
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高校1年		英語コミュニケーション I		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発 動機						
時間数		使用教科書		☒	課題発見	☐	戦略的学習力	☒	言語スキル	☒	協働性	☐	データサイエ ンス	☐	クリエイティビ ティ	未来 志向
3時間／週		Power On I (東京書籍)		☒	可能性発見	☒	自己修正	☒	双方向コミュ ニケーション	☐	ソーシャルリ ティ	☒	批判的思考	☒	論理的表現力	他者 尊重
				☒	パーソナライ ズな学び	☐	レジリエンス	☐	感情の コントロール	☒	教科と社会を 紐づける力	☒	情報リテラ シー	<倫理観><双方向コミュ ニケーション><自己修正>		自己 承認
	単元	単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・Lesson 1 ・Lesson 2 (Lesson 3)	・時制の復習、助動詞／日本文化 ・受け身、現在完了形／生物 ・動名詞、不定詞		世界的 視点・社会	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
			学外の海外の方との実際の交流の中 から、多様なものや異なるものの壁に ぶつかり、自身の先入観や固定概念 を覆す体験をする。		教科書の内容に関係する内容でネイ ティブ教員にプレゼンを行ってもらい、 その内容に対して自分なりの問いをも つ練習をする。		身につけたスキルを用いながら、イン パクトを残すような自分たちのアイデ アを世界へ発信する体験をする。例え ば学内外における多国籍な人々とリ アルに交流する体験においてである。									
2 学期	・Lesson 5 ・Lesson 7 (Lesson 4)	・関係代名詞／環境 ・関係副詞、関係代名詞／環境 ・後置修飾の分詞、比較		地域的 視点・他者	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
			海外経験を持つ教員(ネイティブ・日 本人教員ともに)や学外の方の本物の 海外体験を聞き、外の世界への見 方を更新していく。		教科書で出てきた単語やフレーズを 用い、自分自身の考えや意見をでき るだけ出す練習をする。自己理解の 経験の蓄積。		Heart Globalなどの表現活動、マイプ ロジェクトなどを通じて、英語をツール として自身を発信する体験をする。									
3 学期	・Lesson 8 (Lesson 9/10)	・分詞構文、関係代名詞の非制限用法、過去完了形／食 料資源 ・知覚動詞、使役動詞 ・仮定法		個人的 視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
			教科書の内容を理解する中で単語や フレーズの意味や使い方を身につけ る。		自分は未来にどう英語を使いたいの か、何が苦手でどう克服したいのか、 毎学期学びの地図を更新させて、自 己理解・自己コントロールなどのコン ピテンシーへと繋げる。		日常のスピーチ活動を集約して学期 に一度自分のことを相手に伝える発 表活動をする。									
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act							
					評価方法											
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例 Heart					創造的な活動およびアウトプットの例 Hands		知識・技能		●単元テスト ●データベーステスト ●スピーキングテスト ●チェックテスト ●プレゼンテーション		●創作活動 ●協働や相互評価 ●発表または共有 ●活動の貢献度 ●学習の進捗状況		【教材】 ・参考書FACTBOOK ・副教材データベース3000 ・副教材English Practical Reading / L ・授業プリント			
それぞれの社会トピックで登場する課題や面白さを 自分の日常に近づける					・社会トピックと自身との関係を表現する語彙を身 に着ける ・その関係のうえで、自分のアクションとしてできる ことを表現する		思考力・判断力・ 表現力						【ICT】 教科サイト、iPadなど			
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化> Head					・Google Classroom ・Loilo note		主体的に学習に 取り組む態度									

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)								担当				
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高校1年		論理・表現 I		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数		使用教科書		☒	課題発見	☒	戦略的学習力	☒	言語スキル	☒	協働性	☒	データサイエンス	☒	クリエイティビティ	未来志向
2時間／週		Big Dipper English Logic & Expression I		☒	可能性発見	☒	自己修正	☒	双方向コミュニケーション	☐	ソーシャルリティ	☒	批判的思考	☒	論理的表現力	他者尊重
				☒	パーソナライズな学び	☐	レジリエンス	☐	感情のコントロール	☒	教科と社会を紐づける力	☐	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	Lesson 1～7	・英語の文の成り立ちを確認し、英語で論理的に表現するための基本的なルールを身につけた上で表現活動を進める。 ・あらゆる場面で時制を意識しながら、適切に表現できるよう練習する。		社会・世界的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
							社会課題をテーマにした英文を読みこみ、自分なりの問いを設定する。									
2 学期	Lesson 8～15	・助動詞、不定詞、分詞など準動詞の使い方を確認し、またセンテンスパターンを身につけながら、適切に表現できるように練習する。		他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
					英語を用いながら、別の教科や社会的テーマを学ぶ。		社会的テーマを中心に対話し、相互に気づきや課題を見つけ出す。									
3 学期	Lesson 16～19	・比較表現、関係詞の使い方を学び、適切に表現できるように練習する。		個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
					基本的な英語表現をRepetition(繰り返し)を通して実際のコミュニケーションでできるようにする		身の回りのことや社会問題に触れ、自分のことばで考察できるようにする。		自分の意見をOREOで構成し、トークや対話を通して共有し相互評価することができる。							
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act							
					評価方法						学びのリソース(教材・ICT)					
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例 Heart		創造的な活動およびアウトプットの例 Hands		知識・技能	●単元テスト(30%) ●Performance tests(20%)		●Writing performance ●task ●Assignment ●Communication ●学習の進捗状況(50%)		【教材】 ・Lesson video ・Factbook ・Practical Reading / Listening 【ICT】 ・教科サイト、iPad など							
場面ごとにどんな表現が適切かを考え、Repetition(繰り返し)によって身につける。 英語を英語のまま理解・解釈できるように練習する。		・自分のこれまでの活動や意見をまとめ表明する。 ・ライティング作業を通して、論理的な思考をアウトプットする。		思考力・判断力・表現力												
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化> Head		・Google Classroom (進捗課題および予定の確認、振り返り) ・Loilo note(英語表現)・ペーパーテスト(単元テスト)		主体的に学習に取り組む態度												

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校			Unit Plan(年間シラバス)							担当						
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高校1年全コース		選択芸術 選択音楽Ⅰ		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発 動機						
時間数		使用教科書		✔	課題発見	✔	戦略的学習力	✔	言語スキル	✔	協働性	✔	データサイエ ンス	✔	クリエイティビ ティ	未来 志向
2時間／週		MOUSA1		✔	可能性発見	✔	自己修正	✔	双方向コミュ ニケーション	✔	ソーシャルリティ	✔	批判的思考	✔	論理的表現力	他者 尊重
				✔	パーソナライ ズな学び	✔	レジリエンス	✔	感情の コントロール	✔	教科と社会を 結ぶ力	✔	情報リテラ シー	<倫理観><双方向コミュニ ケーション><自己修正>		自己 承認
	単元	単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・歌唱表現の可能性を探ろう ・	・校歌の歌詞、メロディーを覚える、校歌の作曲家岡野貞一について各人が調査、レポートする。 ・身体の仕組みと発声について理解する。 ・世界の音楽を調査し、風土環境、生活、文化、言語と音楽との関りを探求する。グループ学習では各地域の音楽を視覚的、聴覚的に調査し、調べたことを発表する。		社会的視点 世界・社会・社会	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
					実際の生活の中での、伝統芸能や各種行事やイベントを取り上げて、民族と音楽の関係を考える。また、三味線音楽について考える。		現代の私たちの暮らしの中で、音楽と人との関係、役割などを考える		音楽は生活のどのような場面で、どのような形で人々の暮らしに役役立っているのかを探究する							
2 学期	・三味線を弾いてみよう ・伝統音楽や民族音楽の歴史や文化を知ろう ・外国の歌を歌おう	・和楽器・三味線の演奏を学ぶ。 ・歌舞伎音楽に親しみ、日本の伝統芸能に触れる ・コードの仕組み ・ドイツリート、イタリアオペラ、ミュージカル、ゴスペルなどさまざまな楽曲の体験をする ・コードの仕組み		他者・地域の視点 他者	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
					Web上で各国、各地域で行われている音楽にかかわるイベントを調べ、人々のニーズを調査する。 実際の歌舞伎公演の動画を鑑賞し、演奏体験に活かす。 iPadを活用しチームにおけるワークにより楽曲選びをしその過程も楽しむ		グループワークをする中で、他者の意見や捉え方を総合して、膨大な情報を整理できる。		特に予定なし							
3 学期	・クラシック音楽におけるの作曲家の功績を知る ・あらゆるジャンルの音楽の創作に触れる	・クラシック音楽の、音や音楽に対する興味・関心を高め、主体的に学習に取り組むことができる。 ・さまざまな音楽ジャンルにおける気になる作曲家、好きなクラシックの楽曲、オペラ作品、歌曲等々、様々な楽曲を鑑賞、歌唱、等いろいろな形で楽しみ、クラシック音楽の魅力を探る		個人的視点 個人	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
					歌唱の姿勢や発声方法を知る。民族音楽とマスメディアや Web で耳にする音楽の違いを感じ取る。世界の諸民族の音楽の存在を知る。いろいろな民謡を聴き、声の出方や表現方法を味わう。日本の楽器の一つ、三味線について、そのつくり、歴史、歌舞伎など、日本芸能などを学ぶ。クラシック音楽の概念について学ぶ		世界を8つのエリアに分けて各エリアの民族的な器楽音楽について、楽器、音楽の特性、歴史などを調べてみる。伝統芸能としての三味線が、どのような形で、私たちの暮らしの中で活用されているのか、可能性を探る		授業でグループごとの調査研究を発表する。授業内でチームワークのアウトプットを試みる							
				関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act								
				評価方法						学びのリソース(教材・ICT)						
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●まとめテスト(30%) ●授業プリント ●ドリルなど 学習の進捗状況(30%)		●創作活動 ●協働や発表 ●活動の貢献度(40%)		<教材> 適宜プリント <ICT> zoom(任意) <備考> 必要に応じてインターネットや動画配信を利用する							
歌唱や器楽、鑑賞をとおして、音楽や芸術と、生活などの人の営みに興味、関心をもち、自らのテーマを探す。		歌唱課題の理解に歌詞を可視化したり、身体表現を用いたり、自らの表現を追求する。創作においても模倣から自身の表現を見つけ発表する。		思考力・判断力・表現力												
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		・Google Classroom(進捗課題および予定の確認)		主体的に学習に取り組む態度												

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)						担当	笹野		
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー									
高校1年美術コース		美術Ⅰ		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation					
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発 動機			
時間数		使用教科書		☒	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☐		
2時間／週		日本文教出版		☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒		
				☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒		
				☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒		
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)									
1 学期	・ボックスアート	・現代美術の手法を学び、コンセプトを明確にし独自の世界観を展開させていく。		社会的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン				
					・フィールド活動を通して社会の課題に目を向ける	・作品コンセプトにより派生する場合がある	・社会課題を視覚化し伝えるデザインを考える						
2 学期	・立体(テラコッタ) ・アニメーション	・素材の特性を理解し、かたちを作る ・ストーリーを展開しアニメーション制作に取り組む。		地域・他者の視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表				
					・作品鑑賞、表現の多様性 ・モチーフとの対話、丁寧に観察し構造を理解する	・価値観の違い、個性を尊重できる鑑賞力を育む ・同じモチーフの作品でも、それぞれ違う表現があり、その個性を尊重できる鑑賞力を育む	・外部コンクール ・新渡戸祭、スタフェス						
3 学期	・平面(油彩・アクリル)	・油彩、アクリル、メディウムの特性を学び、テクスチャー、マチエールの表現を深める。		個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする				
					・画材の種類、使い方を学ぶ	・制作の意図を明確にし、イメージを言語化する ・これまでの固定観念に捉われない観察眼を養う ・観ること、描くこと、作ることを軸に手で作る楽しさを深めると同時にPCでの基本動作を学ぶ	・プレゼン型講評会 ・校内展示						
				関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act					
				評価方法						学びのリソース(教材・ICT)			
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●コンセプト ●作品 ●ポートフォリオ ●プレゼンテーション		●リアクションペーパー ●提出物 ●出席、授業にのぞむ姿勢		【教材】 ・授業資料 【ICT】 ・iPad、keynote、adobe 【備考】				
・内在するものをいかに表現できるか ・課題に対して何を解決することができるか		新渡戸祭、スタフェス、外部コンクールプロジェクト発表			思考力・判断力・表現力								
ドキュメント(記録化)の方法 ＜共有と振り返りの日常化＞				主体的に学習に取り組む態度									

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校			Unit Plan(年間シラバス)										担当	笹野・渡辺									
学年／コース			教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー																		
高校1年美術コース			美術 I		自分をコントロールする Self-Control			他者とつながる Communication			新しい価値を創造する Creation												
					目標設定		選択	対話		つながり	情報活用		創造表現	内発動機									
時間数			使用教科書		☒	課題発見		☒	戦略的学習力		☐	言語スキル		☐	協働性		☐	データサイエンス		☒	クリエイティビティ		未来志向
3時間／週			日本文教出版		☒	可能性発見		☒	自己修正		☒	双方向コミュニケーション		☒	ソーシャリティ		☒	批判的思考		☒	論理的表現力		他者尊重
					☒	パーソナライズな学び		☒	レジリエンス		☒	感情のコントロール		☒	教科と社会を紐づける力		☐	情報リテラシー		<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>			
単元			単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)																		
1 学期	・スケッチ ・色彩構成	・校内の中で、魅かれるスポットを写真に撮りスケッチ、色彩構成をする。	社会的視点	A3 実社会から学びを得る				B3 実社会の問いを生む				C3 社会貢献のデザイン											
				・フィールド活動を通して社会の課題に目を向ける ・現代美術鑑賞				・作品コンセプトにより派生する場合がある				・社会課題を視覚化し伝えるデザインを考える											
2 学期	・表現を探る(平面) ・デザイン基礎 ・クライアントワーク	・アクリル、メディウムの素材の特性を理解し表現方法を探る。 ・デザインとは何か、どのようなことができるかを学ぶ ・他者の視点を考えた作品制作	他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る				B2 対話から問いを生む				C2 学外に向けて発表											
				・作品鑑賞、表現の多様性 ・モチーフとの対話、丁寧に観察し構造を理解する				・価値観の違い、個性を尊重できる鑑賞力を育む ・同じモチーフの作品でも、それぞれ違う表現があり、その個性を尊重できる鑑賞力を育む				・外部コンクール ・新渡戸祭、スタフェス											
3 学期	・かたちを探る ・パッケージデザイン	・テーマを決め、その表現に適した素材、かたちを考え制作する ・既存商品の調査から考察を行い、そこから得た学びから新たな企画として飲料の設定とデザインを展開 立体による作品制作とプレゼンテーションを通して考えたデザインを他者に伝えることを学ぶ	個人的視点	A1 教科書から学びを得る				B1 個人の問いを生む				C1 校内で発表をする											
				・画材の種類、使い方を学ぶ				・制作の意図を明確にし、イメージを言語化する ・これまでの固定観念に捉われることのない観察眼を養う ・観ること、描くこと、作ることを軸に手で作る楽しさを深めると同時にPCでの基本動作を学ぶ				・プレゼン型講習会 ・校内展示											
				関わり Engage				探究 Investigate				行動 Act											
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例			創造的な活動およびアウトプットの例		評価方法										学びのリソース(教材・ICT)								
・内在するものをいかに表現できるか ・課題に対して何を解決することができるか			新渡戸祭、スタフェス、外部コンクール プロジェクト発表		知識・技能		●コンセプト ●作品 ●ポートフォリオ ●プレゼンテーション				●リアクションペーパー ●提出物 ●出席、授業にのぞむ姿勢				【教材】 ・授業資料 【ICT】 ・iPad、keynote、adobe 【備考】								
					思考力・判断力・表現力																		
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>					主体的に学習に取り組む態度																		

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)							担当						
学年／コース			教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高校1年／探求・フード			選択美術2		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
					目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数			使用教科書		☒	課題発見	☐	戦略的学習力	☒	言語スキル	☒	協働性	☐	データサイエンス	☒	クリエイティビティ	未来志向
2時間／週			日文		☒	可能性発見	☒	自己修正	☒	双方向コミュニケーション	☒	ソーシャルリティ	☒	批判的思考	☐	論理的表現力	他者尊重
					☐	パーソナライズな学び	☒	レジリエンス	☒	感情のコントロール	☒	教科と社会を結ぶ力	☐	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
単元			単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・写真でさんぽ ・ムードボード作成 ・ZINEづくり		・感覚が動くものを知る ・自分と対話してテーマをきめる ・ムードボード作成から自分なりの「～な景色風景」をZINEにまとめる		社会的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
						美術の捉えかたを知り、世界でどう活用されているのか、文化や人種を超えた視点でその可能性について視点をもつことができる。		日常の事象もしくは実社会の問題に対し、役割分担を行い解決するための手段・方法を試行錯誤できる。		実社会において笑顔を生み出すアイデアを提案、対話し実現に向けて行動できる。フィードバックを元に試行錯誤できる。							
2 学期	・エモいを分解、再構成する		・keynoteとgaragebandを使って表現する ・ものごとを「上手い、下手」ではなく「リズムとその関係性」で捉えられるようになる		他者の視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
						捉えかたを工夫することについて変化する自分の感覚を観察し、感じとらえる。		自分とは違う他者の視点の理解に努め、学び方に向き合う姿勢が見られる。また、それらを自己評価することができる。		学外の人に向けて、自分の考えや作品を発表・提案できる。フィードバックを元により良い在り方について試行錯誤できる。							
3 学期	・陶芸		・土の可塑性についての基本的な知識を身につける ・素材の特性を知り、表現したいものを目的に応じて形にできる		個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
						自分の観察眼を用いて、自分が惹かれるものを他者に伝えることができる。学習成果をプレゼンテーションおよび相互評価することができる。											
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act								
					評価方法						学びのリソース(教材・ICT)						
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例 Heart					創造的な活動およびアウトプットの例 Hands					知識・技能		●作品 ●コンセプト ●問いへの向き合い ●プレゼンテーション		●主体的に取り組む態度 ●仲間に還元しようとするアプローチのありかた ●相互評価		【教材】 ・教科書 ・授業プリント ・動画資料 【ICT】 ・iPadアプリ 【備考】	
<捉えかたの変換がもたらすものは何か> <周囲との関係性に感謝し、三方よしを目指すことの意義とは>					個人またはグループで実践(制作活動)を伴った試行錯誤をまとめ、プレゼンする。					思考力・判断力・表現力							
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化> Head					・Padlet(進捗共有、作品共有) ・クラスルーム(予定の確認、課題共有)					主体的に学習に取り組む態度							

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)						担当	燧					
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高校1年		[高校]保健		自分をコントロールする Self-Control		他者とながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発 動機						
時間数		使用教科書		☒	課題発見	☐	戦略的学習力	☒	言語スキル	☒	協働性	☒	データサイエ ンス	☒	クリエイティビ ティ	未来 志向
1時間／週		新高等 保健体育		☒	可能性発見	☒	自己修正	☒	双方向コミュ ニケーション	☒	ソーシャルティ	☒	批判的思考	☒	論理的表現力	他者 尊重
				☒	パーソナライ ズな学び	☒	レジリエンス	☒	感情の コントロール	☒	教科と社会を 紐づける力	☒	情報リテラ シー	<倫理観><双方向コミュ ニケーション><自己修正>		自己 承認
	単元	単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・健康 ・生活習慣病・がん	・健康の概念を学び、その後自分の生活習慣を振り返り、 食事、休養、身体活動と健康がどのように影響し合うのか を学習する。 ・将来、より良い生活を送るために普段からそのような習 慣をつけ、気を付けていくべきかを考えていく。		社会・世界的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
	・社会で起きている問題や課題の現 実を知り、自分の考えを持つことがで きる。				・社会で起きている問題や課題の解 決方法を仲間と共に考えて、見つけ、 発表することができる。											
2 学期	・生命誕生 ・避妊	・妊娠から出産までの内容を学習し、それぞれの考えを述 べられるようにする。 ・望まない妊娠をしないための方法を学習し、実社会と繋 げて問題点や改善点を考えていく。		他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
	・教科書やプリントからの知識と社会 で起こっているものを結び付けて考え ることができる。				・アウトプット型テストや授業内で様々 な意見があること知り、互いの意見を 尊重することができる。											
3 学期	・性感染症	・性感染症の感染源を学習し、身近な存在であることを認 識するとともに、感染しないようにまたは感染したらのこと を考えて行動できるようにする。		個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
	・教科書やプリントから基礎知識を学 習し、内容が理解できる。				・教科書やプリントからの情報をもとに 自分の考えを表現することができる。		・アウトプット型テストの他に校内でポ スターやスライドを発表することができる。									
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act							
					評価方法						学びのリソース(教材・ICT)					
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	知識技能(40%) 思考判断表現(30%) 主体的な態度(30%) アウトプット・単元テストの公欠 や出席停止は追試をする(点 数はそのまま)、普通の欠席は 追試はしない。		●単元テスト(40%) ●アウトプット型テスト(30%) ●スライド作成・提出物(20%) ●授業態度(10%)		【教材】 ・教科書、プリント、避妊具、婦人体温 計など 【ICT】 ・クラスルーム、ロイロノート、keynote 【備考】							
将来どのような人生を歩んでいきたいか。		自分たちが議員だとしたら、どのような政策を 創っていくか。											思考力・判断力・ 表現力			
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		ロイロノート、クラスルーム		主体的に学習に 取り組む態度												

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)				担当	燧、伊藤、金石			
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー								
高校1年		[高校]体育		自分をコントロールする Self-Control		他者とながら Communication		新しい価値を創造する Creation				
時間数		使用教科書		目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機		
2時間／週		新高等 保健体育		☒ 課題発見	☒ 戦略的学習力	☒ 言語スキル	☒ 協働性	☐ データサイエンス	☒ クリエイティビティ	未来志向		
				☒ 可能性発見	☒ 自己修正	☒ 双方向コミュニケーション	☒ ソーシャリティ	☒ 批判的思考	☒ 論理的表現力	他者尊重		
				☒ パーソナライズな学び	☒ レジリエンス	☒ 感情のコントロール	☒ 教科と社会を紐づける力	☒ 情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認	
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)								
1 学期	【A組】ハンドボール・バレーボール 【B組】器械運動(マット) 【C組】サッカー・体づくり運動	【A組】アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、走りながらのパスキャッチなど基本的な技術を習得し、試合中に発揮できるようにする。 【B組】それぞれの技の習得や体の動かし方を理解する。また、仲間と教え合う場面を設け、コミュニケーション能力の育成を図る。 【C組】サッカーの基本動作やルールを習得し試合を展開する。体力を高める運動をしたり、多様な動きをつくる運動を考える。		社会・世界的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン			
					プロや大学生などのプレーの様子を動画等で学び、自分のプレーに生かすことができる。		スポーツにまつわる様々な課題について、興味や問いを持ち提案することができる。					
2 学期	【A組】サッカー・体づくり運動 【B組】ハンドボール・バレーボール 【C組】器械運動(マット)	【A組】サッカーの基本動作やルールを習得し試合を展開する。体力を高める運動をしたり、多様な動きをつくる運動を考える。 【B組】アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、走りながらのパスキャッチなど基本的な技術を習得し、試合中に発揮できるようにする。 【C組】それぞれの技の習得や体の動かし方を理解する。また、仲間と教え合う場面を設け、コミュニケーション能力の育成を図る。		他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表			
					友達のプレーから良い点・悪い点をみつけ、自分のプレーに生かすことができる。		自他のプレーについて課題を見つけ、技能を高めるためのアドバイスをすることができる。					
3 学期	【A組】器械運動(マット) 【B組】サッカー・体づくり運動 【C組】ハンドボール・バレーボール	【A組】それぞれの技の習得や体の動かし方を理解する。また、仲間と教え合う場面を設け、コミュニケーション能力の育成を図る。 【B組】サッカーの基本動作やルールを習得し試合を展開する。体力を高める運動をしたり、多様な動きをつくる運動を考える。 【C組】アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、走りながらのパスキャッチなど基本的な技術を習得し、試合中に発揮できるようにする。		個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする			
					基本ルール・技術について、教科書から学ぶことができる。		自分のプレーについて課題を見つけ、技能を高めることができる。		試合や発表会など学んだ基礎技能を実践で使うことができる。			
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act			
				評価方法					学びのリソース(教材・ICT)			
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●技能・筆記テスト(50%) ●授業参加度(20%) アウトプット・単元テストの公欠や出席停止は追試をする(点数はそのまま)、普通の欠席は追試はしない。		●アウトプット型テスト(30%)		【教具】 ・体育用具 【ICT】 ・iPad ・ロイロノート ・クラスルーム 【備考】			
・生涯を通してスポーツとどう関わることができるか ・自他の課題解決のためにどう行動するか		試合や発表会など学んだ基礎技能を実践で使うことができる。										
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		ロイロノートなど		主体的に学習に取り組む態度								

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)						担当	戸 叶					
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高校1年フードデザインコース		調理		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数		使用教科書		☒	課題発見	☐	戦略的学習力	☐	言語スキル	☒	協働性	☐	データサイエンス	☒	クリエイティビティ	未来志向
3時間／週		教育図書 フードデザインほか		☒	可能性発見	☒	自己修正	☒	双方向コミュニケーション	☐	ソーシャルリティ	☐	批判的思考	☒	論理的表現力	他者尊重
				☒	パーソナライズな学び	☐	レジリエンス	☐	感情のコントロール	☒	教科と社会を紐づける力	☒	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
	単元	単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・包丁の持ち方 ・野菜の切り方 ・調理器具の扱い方 ・「食」の社会課題	・調理の基本について学ぶ ・三重県答志島のサワラについて学び、プロの料理人と一緒にご当地メニューを開発する。 ・食に関するニュースを調べて発表する。		社会・世界的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
					世の中に出回っているレシピを検索し、選択したものを自分が身につけたスキルで実践することができる。		既存にあるレシピから実践してみて、よりよいレシピにするためにはどうすればよいのかを考察、実践する。		学んだ知識を生かし、プロジェクト活動へのつながりを目指す。							
2 学期	・調理法別の調理法 ・調理器具の扱い方 ・「食」の社会課題	・「煮る」「焼く」「蒸す」など調理法別の調理法を学ぶ ・蒸し器、オープンなど調理法に合った調理器具の扱い方を学ぶ ・スタディツアーに向けて「食」の社会課題を意識して調べる		他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
					授業で学んだ内容を身につけ、実習に生かすことができる				授業で学んだ内容を実習のグループ内で共有し、役割分担を行いながら実習でアウトプットを共創する							
3 学期	・調理法別の調理法 ・「食」の社会課題	・「煮る」「焼く」「蒸す」など調理法別の調理法を学ぶ ・スタディツアーに向けて「食」の社会課題を意識して調べる		個人の視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
					「食」に関する社会課題や第一次産業について、教科書や書籍、ニュースから学ぶ		A1で磨いた事を深めるためにどうすればよいのかということに向き合う姿勢がみられる。また、それを自己評価することができる。		A1、B1で学んだ学習効果をプレゼンテーション、および相互評価することができます。							
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act							
				評価方法						学びのリソース(教材・ICT)						
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例 Heart		創造的な活動およびアウトプットの例 Hands		知識・技能	●単元テスト ●出欠 ●身だしなみ		●創作活動 ●協働や相互評価 ●発表または共有 ●活動の貢献度 ●学習の進捗状況		【教材】 教科書、プリント、iPad 【ICT】 ・教科サイト 【備考】 必要に応じてWeb動画、Webソフトを活用							
「食」とは何か		「食」とは何かについて自分の意見をまとめてアウトプットすることができる											思考力・判断力・表現力			
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化> Head		●Google Classroom(進捗課題および予定の確認) ●ドキュメント		主体的に学習に取り組む態度												